

放課後等の活動の支援の検討状況

今後の課題（中間報告書より）

◆ 放課後等デイサービスの充実

障害のある児童の活動場所として、様々な障害種別やニーズに対応できる放課後等デイサービス事業所は今後も充実が必要です。事業所の増加の一方で、受入れ可能な事業所が限られる肢体不自由児や重症心身障害児の行き先を確保していくことも課題です。

市が設置する総合福祉センター放課後等デイサービス「ぴっころ」は、総合福祉センターの移転に伴い、送迎の実施を含む移転後の事業実施体制を検討する必要があります。

主な取組

(1) 放課後等デイサービスの拡充

区分	単位	第5期障害福祉計画			第6期 障害福祉計画				
		H30	H31	R2	R3		R4		R5
		実績	実績	実績	計画	実績	計画	実績	計画
利用者数	人	354	378	391	400	416 (103.1%)	410	431 (106.3%)	420
延べ利用日数	日	39,887	45,281	43,245	48,000	45,975 (95.8%)	49,200	46,397 (94.3%)	50,400
市内事業所数	箇所	20	21	21	-	23	-	23	-
定員数	人	190	205	205	-	220	-	220	-

※（ ）内の割合は、計画値に対する実績値の達成率を表しています。

※ 市内事業所数、定員数は、各年度末時点の状況です。

○ 調布市においても、全国的にも、放課後等デイサービスの利用者数、事業所数は増加傾向にあります。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、近年では増加率は鈍化。

⇒ 今後も事業者からの開設相談や、市独自の開設費補助、運営費補助における補助金の採択、交付条件等を通じて、多様なニーズに対応可能な事業所の拡充を図る。

(2) 重症心身障害・医療的ケア児への支援の充実

ア 医療的ケア支援技術向上研修（集合型・派遣型） ※令和4年度～（第7回より再掲）

放課後等デイサービス事業所での有資格者（看護師等）向けのスキルアップ研修

イ 医療的ケア児等支援放課後等デイサービス事業所運営費補助金 ※令和5年度～

重症心身障害児、医療的ケア児の受入れを行う放課後等デイサービス事業所への運営費補助

(3) 総合福祉センター放課後等デイサービス「ぴっころ」

以前より保護者から送迎サービスの実施について要望あり。

⇒ 総合福祉センターの京王多摩川駅周辺への移転にあわせ、送迎サービスの実施を検討。

今後の課題（中間報告書より）

◆ 多様な活動機会の確保

放課後等デイサービスに限らず、学童クラブなどで健常児と共に活動する機会や、スポーツ・運動やレクリエーション活動など、多様な活動を経験できる場や機会の充実が必要ですが、ボランティアを含めその担い手を継続的に確保していくことが課題です。

障害児を主な対象とした活動の場だけでなく、民間の習い事・教室での受入れ機会を広げていくことが必要です。

主な取組

(1) 学童クラブにおける障害児の受入れ

医療的ケア児の受入れが可能な学童クラブを設置しているほか、各学童クラブにおいても、加配職員の配置や送迎事業を実施するなど、障害がある児童や配慮が必要な児童が健常児と共に過ごす機会を確保している。

【令和2～4年度の実績】

各年度4月1日の人数	R2年度	R3年度	R4年度
障害児入会承認人数	39	45	47
配慮児入会承認人数	56	45	35
全入会承認児童人数	2,303	2,246	2,449

⇒増加傾向にある障害児の入会について、現行で実施している付添送迎事業や加配職員の配置の周知をするとともに、市内全域の学童クラブ一丸となって受入れを推進する。

(2) 放課後子供教室あそびバにおける児童の遊びの機会の提供

各小学校に在籍する児童（障害児含む）が利用可能な放課後子供教室あそびバにおいて、児童からやりたいあそびを募集し実施している。障害児と健常児が共に活動できる居場所の提供のため、障害特性に関する研修を行い、担い手確保に努めています。

また、民間企業や地域団体の協力により様々なあそびのプログラムを取り入れ、児童のあそびに関わる機会を推進している。

【令和2～4年度の実績】

	R2年度	R3年度	R4年度
利用者数（全体）	96,004	133,215	155,169
利用者数（障害児及び配慮児童）	3,859	5,356	7,213

⇒児童が自由に過ごせる居場所という従来の事業の良さは残しつつ、民間企業や地域団体協力によるあそびのプログラムを推進し、児童が様々なあそびに触れる機会を創出する。

(3) その他

障害者差別解消法の一部改正（令和6年4月1日施行）により、事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されることについて普及啓発を進め、民間の習い事・教室での受入れ機会拡大につなげる。